

学校再編準備委員会(第1回通学・安全部会) 結果概要

■ 開催日時 令和6年5月13日(月) 午後7時から午後8時45分まで

■ 開催場所 天名公民館 多目的ホール

■ 出席者 【委員】8人

【教育委員会事務局】5人

参事兼教育政策課長

教育政策課副参事兼政策推進グループリーダー

政策推進グループ(3人)

■ 傍聴者 7人

■ 事項

1 開会(教育政策課長挨拶、出席者紹介)

2 現状の確認(通学距離・アンケート結果)【資料1】

3 スクールバス導入に向けた検討について【資料2】【参考資料①、②】

→2から3まで資料に基づき説明。その後、質疑応答及び意見交換。

《質疑応答、意見交換》

(参加者)

- ・ スクールバスについて、3km以上を対象とするか、2km以上を対象とするのかというところが、ポイントになってくると思うが、どう考えているのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 市内小学校の現状を見ると、4kmかけて通学している生徒はほとんどいない中で、基本的に3kmで調査を行ったが、天名や合川地区は2kmぐらいなので、2kmを基準に考えていきたい。
- ・ 2km以内の地域もあるが、危険箇所や地域事情も踏まえた上で、検討していく必要があると考えている。

(参加者)

- ・ スクールバスの対象範囲を距離で定めてしまうと、地域で不公平感が出てきてしまうため、距離ではなく、柔軟に考えていく必要があると思う。

- ・ まずは子どもたちの安全確保を考えてあげることが大事だと思う。
- ・ 公の施設や広い敷地があるところまで、集団通学してからスクールバスを利用することで、地区の子どもたちと一緒に通学できる。
- ・ 保護者のライフワークバランスも重要。

(参加者)

- ・ スクールバスの降車場所について、学童が入っていないので、検討してほしい。
- ・ 合川小学校は、学区外から通っているフレンズという登校班があり、登校時に車で送迎する場合は、学校付近の駐車場まで送ってきてもらい、一緒に登校している現状があるため、登校先が郡山小学校に変わっても、同じような形(例えば、郡山公民館を利用)を取りたいという声が上がっている。

(教育委員会事務局)

- ・ フレンズの登校班の対象者が、地元の小学校に通うのか、新たな小学校に通うのかについては、スクールバスの利用も踏まえ、保護者の意向を確認することになる。
- ・ また、乗降場所などは、今後検討していくことになるが、学童が継続するということであれば、乗降場所を設ける必要があると考えている。
- ・ 学童については、子ども政策課が所管しており、今月頃から地域の方や、学童の方に意見を伺うと認識している。

(参加者)

- ・ 人数が少なくなると、天名と合川で合同の学童になる可能性もあるかもしれない。

(参加者)

- ・ 学童を残せるようなバスのダイヤにした方がいいと思う。
- ・ 授業が終わってからバスが出る時間までの時間が長いと、バスが来るまで郡山小学校の学童を利用して、バスを降りてからは地元の学童を利用すると費用もかかる。
- ・ 地域の高齢者の方で、携わっている人の生活の糧にもなっていると思うので、そのあたりも考慮するべきではないか。

(教育委員会事務局)

- ・ バスのダイヤについては、臨機応変な対応も踏まえ、今後検討していくことになる。

(参加者)

- ・ 例えば授業参観日など、スクールバスの利用者が少なくても運行してもらえるのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 学校があるときは、基本的にはスクールバスの運行を考えているが、授業参観など、通常時と異なる場合の運用については、調整が必要になると考えている。

(参加者)

- ・ 通常時と同じようにスクールバスを運行してもらえると安心感がある。

(教育委員会事務局)

- ・ 特殊な事情がある際のスクールバスの運行については、今後の検討課題と考えている。

(参加者)

- ・ スクールバスの利用意向アンケートで、希望しないと答えた方の理由は何か。

(教育委員会事務局)

- ・ お子さんを病院に連れて行っているなどの事情がある方だと把握している。

(参加者)

- ・ そういう理由であれば、利用しないというより、対象から外れるのではないか。

(教育委員会事務局)

- ・ アンケートについては、回答の選択肢があるので、希望しないと回答したと思う。
- ・ アンケートで希望しないと回答した方をスクールバスにさせないということではない。

(参加者)

- ・ スクールバスについて、2km以上が対象という方向性が急に変わることはないか。
- ・ 目が届かないところを通るとなると、安全面が心配なので、スクールバスを出してもらえるとありがたい。

(参加者)

- ・ 2km以上が対象になると、徳田町は全員がスクールバスに乗れるということか。

(参加者)

- ・ 基本的には全員がスクールバスに乗れるようにする検討ではないのか。

(教育委員会事務局)

- ・ スクールバスの対象が2km以上、3km以上というのも、決まったことではないが、事務局としては、様々な意見を伺いながら、市全体の基準として、2km以上の方向で進めていきたいと考えている。

(参加者)

- ・ 2km以上という距離を決めるのではなく、全員が乗れるように考えていけばいいのではないか。

(教育委員会事務局)

- ・ 地域で不公平感が出てきてしまうといった意見もあったので、全員乗せられるような意思決定ができるように、意見をたくさんいただきたい。

(参加者)

- ・ 地域事情を踏まえた調整ということか。

(教育委員会事務局)

- ・ 2km未満の場所でも、すごく狭い危険な場所があったりして、きちんとした通学路が整備されてない箇所もあると思うので、そういうところがあれば教えていただきたい。

(参加者)

- ・ 徳田は通勤時に通るが、伊勢鉄道の下のところは道が細くとても危ない。

(参加者)

- ・ 朝の通勤時は、工業団地付近も交通量が多い。

(参加者)

- ・ たまに大型車も走っている。

(参加者)

- ・ 交通事情や人がいないところは、実際に見てもらったらわかると思う。

(参加者)

- ・ 中ノ川の近くや、伊勢鉄道の下は雨が降ると水がついて危ないところもある。

(参加者)

- ・ 天名から郡山へ向かうところは全部道が細く、道路拡幅や歩道設置は大変な費用がかかる。

(参加者)

- ・ そういう道を歩くなら、防犯カメラも付けてほしい。

(教育委員会事務局)

- ・ このような地域事情をたくさんお聞かせいただいて、それを踏まえた上で、基準を設定していきたいと考えている。
- ・ 中勢バイパスが全線開通して、交通の状況が変わったと思うが、実際はどうか。

(参加者)

- ・ 交通量は多い。

(参加者)

- ・ 磯山バイパスができるまではあまり変わらないと思う。
- ・ 道幅が狭いところもあり、車が通ると結構危険だと思う。

(参加者)

- ・ スクールバスの乗降場所は資料のところで確定なのか。

(教育委員会事務局)

- ・ シミュレーションする上で必要となるため、設定しているので、確定ではない。

(参加者)

- ・ スクールバスについて、業者に委託するのか。

(教育委員会事務局)

- ・ まだ決まっていない。

(参加者)

- ・ 安全面での不安はあるが、業者に委託するとなると、かなりの費用がかかってくると思うので、バスの運転を、大型運転免許を持っている定年後の消防職員が行うといったことも考えられるのではないかな。
- ・ 経費が削減できれば、バスの台数を増やせるのではないかな。

(教育委員会事務局)

- ・ バスやトラックの運転手不足は全国的にも問題になっており、桑名市では、定年後の消防職員が三重交通に転籍できる枠組みがあると認識している。
- ・ 鈴鹿市にとって初めてのスクールバス導入となるので、人材の有効活用や安全面も踏まえた上で、どのような手法が一番いいのか、検討しながら進めていきたいと考えている。

(参加者)

- ・ 安全面については、研修を受けさせれば良いと思う。
- ・ 市としても経費を下げて、人材の有効活用も行っており、地域住民のニーズにも合っているとなれば押し進めていけるのではないかなと思い、提案した。

(参加者)

- ・ スクールバスの利用に費用負担はあるのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 今回の学校再編に関するスクールバスについての費用負担は今のところ考えていない。

(参加者)

- ・ まず大事なのは、安全に登下校ができることだと思う。
- ・ 懸念事項として上がっている交通量の多さは実感している。
- ・ 通学路が変わった場合に、安心して登下校できる環境がない限りは、バス以外の選択肢は厳しいと思うので、距離で分けるのは非常に難しい。また、環境づくりの部分も並行して議論していく必要があるのではないか。

(参加者)

- ・ 保護者や子どもが安心できる環境づくりをすることが前提で大事だと思う。

(参加者)

- ・ 鈴鹿市のモデルケースとなっていくかもしれないので、柔軟に考えてもらいたい。
- ・ 地域としても不安はあると思うが、保護者や子どもたちが、安心して学校生活を送れるようにすべきだと思うので、その気持ちを理解した上で取り組んでももらいたい。

(参加者)

- ・ 集団で登校する前の集合場所などをスクールバスの乗降場所にしてほしいという声もある。

(教育委員会事務局)

- ・ スクールバスの乗降場所についても、決定しているわけではない。
- ・ 乗降の5分間の滞在時間も設けての仮の運行スケジュールを示している。

(参加者)

- ・ スクールバスの台数は何台で考えているのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 2km以上を対象とする場合、登校時は4台必要となっているが、乗降場所やルートを検討を行って精査していく必要がある。

(参加者)

- ・ スクールバスの乗降場所や数についてもこれから検討していくのか。

(教育委員会事務局)

- ・ そうである。乗降場所が今の通学路上にあれば、少し安心する部分もあると思う。

(参加者)

- ・ 乗降場所について、ふれあい会館や農協の敷地を開放してもらうことも考えられないか。

(参加者)

- ・ 子どもがスクールバスから降りる時が一番危ないと思う。

(参加者)

- ・ スクールバスの運転手しかいないとなると、不安な面はある。

(教育委員会事務局)

- ・ 乗降場所についても、仮で設定しており、広い場所で集合する場合、乗降場所が少なくなる可能性もあるが、集合場所が多くなると、バスに乗っている時間が長くなる可能性もあるので、そのあたりも様々な意見をいただきたい。

(参加者)

- ・ イメージがつきやすいように、仮の乗降場所や運行ルートを設定してシミュレーションしたということか。

(教育委員会事務局)

- ・ そうである。

(参加者)

- ・ 次回の会議の際には、乗降場所の提案をした方がいいのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 様々な意見が出ると思うので、教えていただきたい。

(参加者)

- ・ 学童で子どもたちを降ろしてもらえると、安全だと思う。学童の利用率も増えるのでは。

(参加者)

- ・ 午後6時以降は恐らく、学童の費用が増すというか、発生する。
- ・ 学童の利用時間に関する意見も出てくるのではないか。

(参加者)

- ・ 授業終了時間にあわせて、スクールバスの運行があるのが理想。
- ・ 1つの意見として、環状運転する方法もあると思う。

(教育委員会事務局)

- ・ 1つの案としてはそういったこともあると思う。

(参加者)

- ・ 子どもたちをより安全に。という思いがある。

(教育委員会事務局)

- ・ 様々な意見をいただきたいと思っている。

(参加者)

- ・ 正式にスクールバスが走るかどうかはいつ決まるのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 予算要求がある秋頃には返事ができると思っている。

(参加者)

- ・ 令和6年度の秋ということか。

(教育委員会事務局)

- ・ バスの納車に必要な期間や運転手の確保が難しいといったところを踏まえると、令和6年度の秋頃には予算要求が必要と考えている。

(参加者)

- ・ 秋とは何月ぐらいか。

(教育委員会事務局)

- ・ 9月、10月ぐらいである。
- ・ バスの納車に必要な期間がどのくらい正確にはわからないが、レンタル事業者に発注するとしても、新しい車の確保に期間が必要になってくると思う。
- ・ 委託するのか購入することになるのか、まだ方向性は決まっていないが、意見でいただいた運転手の件も踏まえ、検討していきたい。

(参加者)

- ・ 会議資料を事前にもらえるとありがたい。

(教育委員会事務局)

- ・ 可能な範囲で対応できればと思っている。

(参加者)

- ・ 令和6年度の予算要望前に議会に話を通しておかなくてよいのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 予算要望は議会对応に含まれる。

(参加者)

- ・ 予算要求には予算額の根拠が必要ではないか。
- ・ 予算要求の際には、スクールバスの基準が決まっていなくて難しいのではないかと。
- ・ 時間がないのではないかと。

(教育委員会事務局)

- ・ 予算要求のこともあるため、スクールバスは導入の方向で動いている。

(参加者)

- ・ 7月の会議で間に合うのか。

(参加者)

- ・ 現時点である程度決まっていなくていけないのではないかと。

(参加者)

- ・ 自分たちの意見が反映されないのではないかとという危機感を感じている。

(教育委員会事務局)

- ・ 2km未満をどうするかという話が今回上がってきている。
- ・ 距離の考え方や運行ルートを踏まえ、まずはバスが何台必要かを把握したい。

(参加者)

- ・ ということですか。

(教育委員会事務局)

- ・ 試乗会や説明会を行うことを考えると、令和7年度の12月頃には、全部固まっている必要があると考えているので、それに向けても予算要求をしていく必要がある。

(参加者)

- ・ 本当に時間がないと思う。予算がなかったら、4台も5台も無理ではないかと。

(教育委員会事務局)

- ・ 急に予算要求というわけではなく、準備委員会の進捗状況や、市の統一基準をこうしていきたいというところは、議会に対して、随時説明をしていきたいと考えている。

(参加者)

- ・ 統一基準もまだ決まっていなくて焦っている。

(教育委員会事務局)

- ・ 事務局としても時間が限られていることは認識している。

(参加者)

- ・ 予算は削られることもあるので、最大で要望していくということか。

(教育委員会事務局)

- ・ 予算が削られると困るので、参考となる意見をいただいている。

(参加者)

- ・ スクールバスは4台が最大なのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 現在の想定は4台であるが、定員にもよると考えている。

(参加者)

- ・ 乗降場所が多ければ、朝の集合時間が早くなる可能性があるのか。

(教育委員会事務局)

- ・ そうである。

(参加者)

- ・ スクールバスの台数が足りないのではないか。

(教育委員会事務局)

- ・ 乗降場所が広いところだけになる可能性もあれば、細かいところも含めた何箇所かになる可能性もあるため、乗降場所の件も含めて、検討課題と考えている。

(参加者)

- ・ シミュレーションにある利用者にフレンズの登校班は入っているのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 居住地ベースのため、入っていない。

(教育委員会事務局)

- ・ 本日、距離については2kmというところ、距離を考えずに安全面を優先して考えてほしいということや、乗降場所、運行ダイヤのことについても、ご意見をいただいたので、鈴鹿市としての統一的な基準について、検討を早く進めていきたい。

4 次回の開催日時について

・第2回通学・安全部会の開催日は、令和6年7月8日(月)午後7時からに決定。

5 閉会

以上